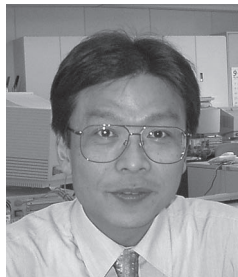


編集委員リレー執筆コーナー



福居 雅也
FUJUKI Masaya
本誌編集委員

昨年7月より本誌の編集委員を担当させていただいております。一番の新参者ですが、今後ともよろしくお願いいたします。

編集委員リレー執筆コーナーの執筆依頼を受け、参考とばかりに既刊の本誌のこのコーナーを読み返してみれば、多彩な趣味や貴重な経験談などが書かれており、感心して読み耽ってしまいました。わが身を振り返ると無趣味で大した経験もないことに改めて気付かされ少なからずショックを受けました。

さて、本年4月16日、シアトルマリナーズのイチロー選手が日本選手最多安打記録となる日米通算3086安打をマークしたことはまだ記憶に新しいことと思います（この文章が掲載される頃には、少々、古いネタでしょうか?）。WBCの連覇といい、さすが!としか言いようがなく、凡人には羨ましい限りです。

雲の上の存在ですが、クールで強気なインタビューもファンにとってはたまらない魅力ではないでしょうか。

そこで、いわゆる「イチロー語録」をいくつかピックアップしてコメントしてみました（⇒:コメント）。

「他人の記録を塗り替えるのは7割、8割の力でも可能だが、自分の記録を塗り替えるには10以上の力が必要だ」

⇒ 個人差はありますが、言い得て妙な名言です。

「小さいことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行くただひとつの道だと思っています」

「偶然だけでは結果は出ない、結果を出すにはそれなりの理由がある」「勝負の世界っていうのは、結果を出さないといものを言えない世界ですから」

⇒ 努力=結果ではありませんが、日々の努力が

大切です。我々の仕事にも相通じる名言です。

「過去は変えられないが、未来は変えることができる!」

⇒ 過去を振り返ることなく前進あるのみ。

「考えて、実行して見せてやることの効果が大きいんですね。チームメイトには、言葉で伝えることより、実際にやって見せるほうが効果的だと思っています」

⇒ 上司や先輩の背中を見て成長するのはどの世界でも同じ。

「考える余地は、いくらでも、探せばある」

⇒ 行き詰った時、発想の転換が必要と言うことでしょうか。

「ついてこれるもんなら、ついてきてみる」

⇒ 自信の表れの最上級です。

野球ではなく、「仕事」や「人生」に置き換えても十分意味が通じる、含蓄のある名言ではないでしょうか。

イチロー選手にとって今季はまだ序盤。9年連続200安打、ピート・ローズの4256本の史上最多安打記録という大リーグ新記録も待ち受けています。

現状維持を許さないイチロー選手にしてみれば、今回の記録も一つの通過点でしかないはずで、さらに高みに登りつめることを期待したいものです。

今回はなるべく肩の張らない話題としましたが、次回、このコーナーへの執筆の機会があれば、気の利いた趣味の話題でも取上げたいと思います。

